

---

## 中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

---

2007年10月24日号

◎2007年9月トウモロコシ市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年9月におけるトウモロコシ市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 9月の光熱条件はトウモロコシの灌漿に有利、生産量はやや増加

2007年9月下旬の全国の春・夏トウモロコシは、基本的に乳熟期（開花・受粉後、実の中に澱粉その他栄養分を蓄え始める時期）から成熟期にある。東北の生産地では、拔節期（主茎の節が急伸する時期）から抽雄期（雄穂が伸び出る時期）に深刻な干ばつに襲われ、トウモロコシの抽雄吐糸が阻害され、授粉が不良で、穂が小粒な状況が比較的広範囲にわたって見られ、生産量に影響を与えた。気象部門の予測によると、全国のトウモロコシの単位当たりの生産量は、前年に比べ3%前後減少する見込みである。ただし、トウモロコシのは種面積が増加していることに加え、9月には大部分の生産地で光熱条件がトウモロコシの灌漿（結実期に植物の脈管を通して澱粉が送られること）に有利に働き、総生産量は前年をやや上回るものとみられている。

2 輸出は大幅増、輸入は大幅に減少するも輸入量はわずか

海関統計によると、2007年8月のトウモロコシ輸出量は、前年同月比40.7倍増の22.8万トンとなった。1～8月の累計輸出量は、前年同期比83.3%増の414.7万トンとなった。海上輸送費と国際価格の上昇により輸入コストが増加し、輸入量は減少した。1～8月のトウモロコシ累計輸入量は、同84.3%減の8,680トンとなった。輸出量と比較して、輸入量は依然としてわずかなものであるが、最近トウモロコシ輸入が急速に増加する傾向にある。

中国のトウモロコシの主要輸出相手国は韓国で、総輸出量の64.0%を占めている。その

他重要な輸出相手国として日本、マレーシア、インドネシアなどがある。前年同期に比べ、中国から日本及びマレーシア向けの輸出量は倍以上増加し、韓国向け輸出は70%増となった。輸出地区は、内蒙古自治区及び東北3省に集中している。

### 3 世界のトウモロコシ生産量は大幅増、需給のひっ迫はやや改善

米国農務省（USDA）の9月の予測によると、2007/08年度の世界のトウモロコシ生産量は前年度を9.9%上回り、新記録となる7.72億トンと予測されている。うち米国はトウモロコシのは種面積が大幅に増加し、生産量は23.9%増の3.32億トンと見込まれている。米国のトウモロコシが世界の生産量に占める割合は、43.0%にまで増加するとみられている。また、世界のトウモロコシ消費量は引き続き増加し、前年度比6.2%増の7.69億トンとなると見積もられている。うち飼料消費は1.9%増の4.83億トンで、総消費量の62.8%を占めている。数年来、全世界のトウモロコシ需給は、生産が需要を上回る様相を示していたが、需給の矛盾はやや改善に向かっている。これにより、トウモロコシの期末在庫は2.0%増の1.02億トン、在庫／消費比は13.3%と見込まれている。

貿易面では、2007/08年度の世界のトウモロコシ輸出量は、前年度比1.1%元の8,601万トンと予測されている。うち米国の輸出量は5,461万トンで、世界の輸出量の63.5%を占めている。同じく輸入量は、0.5%増の8,533万トンと予測されている。主要輸入国は、日本が1,610万トンと世界の輸入額の18.9%を占め、第一位とされる。メキシコは輸入が1,020万トンまで増加し、同じく12.0%を占めて第二位、韓国は輸入量が910万トンで同10.7%となり、第三位に後退するとみられている。

### 4 国内価格は南強北弱、国際価格はやや反発

国内のトウモロコシ価格は、引き続き「南強北弱」の趨勢を示している。9月20日までの生産地の平均卸売価格は1トン当たり1,547円で、前年同月比0.9%高、前年同月比15.2%高となった。うち東北の生産地は前月並みで、前年同月比では15.5%高となった。華北・黄淮（黄河・淮河流域）地区の生産地では、前月比0.8%高、前年同月比14.9%高となった。消費地の平均卸売価格は同1,761円で、前月比1.5%高、前年同月比17.9%高となった。ただし、9月下旬の東北の生産地におけるトウモロコシ価格は、8月末に比べ0.9%安となった。畜産業及びエタノールなど高度加工企業の需要が強いため、下半期になっても、国内のトウモロコシ価格が大幅に下落することはないとみられている。

また、トウモロコシの国際価格は、やや反発して推移している。2007年9月の米国メキシコ湾の2号黄色トウモロコシの平均港湾価格（本船渡し価格＝FOB価格）は1トン当たり155ドルで、前月比3%高、前年同月比29%高となった。シカゴの先物価格は同137ドルで前月並み、前年同月比では40%高となった。ただし、年初に比べ、それぞれ4.7%安、11.3%安となっている。トウモロコシの収穫期が随時到来したことに伴い、国際市場価格には一定の下方圧力がかかっている。

国内のFOB価格が大幅に上昇したことから、トウモロコシの内外価格差は縮小に向かった。広州の黄埔港では、9月の外国産トウモロコシ価格が国内FOB価格に比べ、1トン当たり549元高かったものの、内外価格差は前月に比べ同44元縮小した。